

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601
研究種目：基盤研究(A) (一般)
研究期間：2017～2021
課題番号：17H00978
研究課題名(和文)多様性の経済学：帰納論的ゲーム理論の構築とその応用

研究課題名(英文) Diversity of economics

研究代表者

松井 彰彦 (Matsui, Akihiko)

東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授

研究者番号：30272165

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 42,840,000円

研究成果の概要(和文)：全体を通じて共通する考え方は個々人がそれぞれの行動原理に従って動くという経済学の祖アダム・スミスの考え方である。この考え方は経済学のみではなく、障害学の研究者にも共有されている考え方であり、それゆえに経済学者と障害学者の共同研究も進むこととなった。経済学と障害学の融合こそが本研究課題の第一の成果である。具体的には、障害や難病・感染症といったものがいかに社会的に作られていくものであるかを事例やゲーム理論を用いて示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

経済学と障害学の融合が最大の学術的意義である。ゲーム理論等を用いることによって、障害者一人ひとりが意思決定者であることを仮定したときの慣習や規範の形成の問題が可能となった。客体ではなく、主体である障害者が直面する社会の壁を理論的に研究することが可能になったことで、これまで情緒的・ヒューリスティックに捉えられてきた障害問題が理論的に捉えられるようになった。

研究成果の概要(英文)：The common underlying idea throughout the research is Adam Smith's idea, the founder of economics, that individuals act according to their own principles of motion. This notion is not limited to economics but is also shared among researchers in disability studies, leading to collaborative research between economists and disability scholars. The fusion of economics and disability studies represents the primary achievement of this research project. Specifically, it demonstrates how disabilities, chronic illnesses, and infectious diseases are socially constructed using case studies and game theory.

研究分野：障害者を含む個々人を意思決定者とみなし、そこから作られる慣習・規範をゲーム理論によって研究する。

キーワード：ゲーム理論 社会的障害 障害の社会モデル 多様性、フラットダイバーシティの超克 社会で作られる難病・感染症 性的マイノリティ 障害女性とダブルマイノリティ 障害者権利条約

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、「多様性(ダイバーシティ)」という言葉が社会を語る際のキーワードとして使われることが多くなってきた(表1)。「多様性」を推進する取組みも新聞等で盛んに紹介されるようになった一方、それが本来狙いとしていたはずの「社会的価値の創出」につながっていないのではないかと懸念が生じている。具体的には、「多様」な人々の参加を組織のパフォーマンスや社会統合につなげられていないのではないかと(包摂・インクルージョンの失敗)という懸念や、「あらゆる多様性は尊重されるべきであり、また尊重することができる」というフラット・ダイバーシティ・モデルの平板なメッセージと、それに基づいて構築された「多様性推進」という枠組の中で一部の人々を差異化させ、逆に序列化や差別・偏見を助長しているのではないかと懸念がある。しかし、これらの懸念に基づいた研究は、個々の組織・文化がそれを取り巻く社会規範や慣習によって強く規定されているという視点を欠いているために、フラット・ダイバーシティ・モデルに対する有力な対抗理論とはなり得ていない。

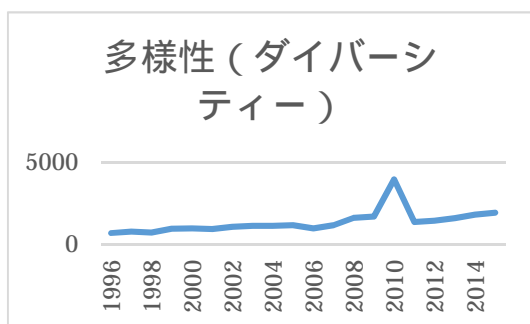


表1 「多様性(ダイバーシティ)」に関する主要4紙

(日経、朝日、読売、毎日)の年間言及回数
(日経テレコンにて申請者調べ)

多様性推進のために「障害者」や「性的マイノリティ」といったラベリングをすれば、その行為自体が差異を生む。また、彼らを包摂しようと、様々な(有形・無形の)制度を構築しようとすれば、その制度からも漏れ、制度の隙間に落ち込む人々が生じる。例えば、希少性疾患(難病)であれば、世界保健機関(WHO)が推計する疾患数は5千~8千、欧米の推計値を日本に当てはめると約8百万人の難病患者がいることになるが、厚生労働省の基準を満たす疾患数は約300で、該当する患者数は約150万人(厚生労働省推計)にとどまっている。

その主たる理由として、渡部(2016)は1972年の難病対策要項で難病政策が開始されて以来、患者本位ではなく、研究医による研究事業が施策の主軸であったことを挙げる。公的医療保障の整備が進捗する一方で、社会福祉や社会的包摂における難病の実態と課題は明らかになっていない。



図1 「ふつう」の人と差異化された多様性

障害問題では大きな制度的な変化があった。平成28年4月に、国連の障害者権利条約批准を受けた障害者差別解消法が施行され、障害者施策の新しい柱である「合理的配慮」という概念および“Nothing about us without us”という条約の理念が今後の施策に反映されることとなった。

2. 研究の目的

近年の平板なフラット・ダイバーシティ・モデルは、一部のマイノリティを差異化し、逆に序

列化や差別・偏見を助長しているのではないかという疑念がある。新しい試みも、個々の組織・文化がそれを取り巻く社会規範や慣習によって規定されているという視点を十分に取り入れていない。マイノリティの中で、異なる歴史的経路を辿ってきた障害、難病、性的マイノリティの問題に焦点を当て、その歴史や現在の制度を踏まえたうえで、真の「多様性を許容する社会」とは何かという問いを立てる。代表者らが取り組んできた『慣習と規範の経済学』や帰納論的ゲーム理論をこれら現実の問題に即して発展させ、上記の問いへの答えを探る。

3．研究の方法

対象別に障害班、難病班、性的マイノリティ班の3つの班を置く。また、班横断型の理論チームを置く。障害班は前身の研究で行ったパネル調査の分析および28年度施行の障害者差別解消法の分析が柱となる。難病班では、306の指定難病へと拡大された疾患群および難病指定に至らない希少性疾患患者が直面する「制度の隙間」問題の分析を中核に据える。性的マイノリティ班は機能的には問題がないが、社会的に問題に直面する少数派の問題を分析する。とくに都市と地方格差の問題を分析の中心に据える。マイノリティが抱える問題は個々の組織・共同体だけでなく、広く社会の規範や慣習によって規定される。社会ゲームの理論を用いて、この問題を読み解く。差別や謬見を扱うための帰納論的ゲーム理論の応用とその深化発展を企図する。

4．研究成果

全体を通じて共通する考え方は個々人がそれぞれの行動原理に従って動くという経済学の祖アダム・スミスの考え方である。この考え方は経済学のみではなく、障害学の研究者にも共有されている考え方であり、それゆえに経済学者と障害学者の共同研究も進むこととなった。経済学と障害学の融合こそが本研究課題の第一の成果である。

それを体現したものが Matsui (2019) である。同書は、慣習と規範、マイノリティとマジョリティの関係から生まれる差別と偏見といった問題を具体例を織り込みつつ、ゲーム理論を用いて読み解いた世界に類書を見ない書物となった。本書にまとめた論考はすでに国際学術誌に掲載されているものも数本あり、それらの論文の引用件数は1000件を優に超える。また、研究成果の一部は朝日新聞および日経新聞における連載および他新聞のインタビュー、NHKの番組などを通じて社会発信を行い、多くの反響を得た。

飯野・西倉・星加(2022)はフラットダイバーシティを超える新たな障害の社会モデルを提示するとともに、星加を中心として多くの講演を行うことで、その普及に努めた。

杉浦・前川(2022)は、東北6県の性的マイノリティ当事者にインタビューを行い、それを図書にまとめた。ここでは、とくに東京などの大都市在住と地方在住の当事者が直面する問題がいかに異なるかを両者の慣習を比較することで明らかにした。

松井・川島(2021)は制度を障害者対象の特別制度と健常者対象の一般制度に分け、特別制度が一般制度に昇華する過程を具体例を用いて分析した。

その他、各メンバーが数多くの執筆・報告を行った。臼井・瀬山は女性の障害者の問題をダブル・マイノリティの観点から分析した。久野は障害平等研修の主宰者として、障害に関する障害学習の展開・啓蒙に尽力した。長瀬は障害学の実践として障害者権利条約の意義に関する啓蒙に尽力した。田中は知的障害者の社会的自立に関して様々な研究と発信を行った。熊谷は当事者が自己決定をするために何が必要なのかといった観点から様々な研究を行った。福島は盲ろうの教授という自らの稀有の体験を活かして「言葉」の重要性に関する研究・発信を行った。

村上はハンセン病の日米比較を行い、感染症がいかに社会的に作られるかといった問題を考

察した。この論考では専門家が果たす役割を理論的に示しており、Covid-19 への対応が国によってまちまちであったことに鑑みると現代的な意義を持つものとなった。

また、松井・村上(2021)は明治時代の脚気問題に着目し、帝国陸軍と帝国海軍の脚気対策を比較することで、難病がいかにか社会的に作られるかを示した。

森は世界共通の理念としての障害者権利条約が各国・地域に適用されるときに生じる Tension について、イスラエル大使館と共催でカンファレンスを開き、障害者権利条約の実践に関する議論を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計194件（うち査読付論文 26件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 松井彰彦, 川島聡	4. 巻 203
2. 論文標題 制度の隙間をなくす 特別制度から一般制度への昇華	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済分析	6. 最初と最後の頁 59-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井彰彦, 村上愛	4. 巻 203
2. 論文標題 明治期日本の医学制度と「難病」: 帝国陸海軍の脚気対策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済分析	6. 最初と最後の頁 214-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsui Akihiko, Murakami Megumi	4. 巻 120
2. 論文標題 Deferred acceptance algorithm with retrade	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Mathematical Social Sciences	6. 最初と最後の頁 50~65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.mathsocsci.2022.08.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 前川直哉	4. 巻 101
2. 論文標題 男性にジェンダー/セクシュアリティをどう教えるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kano Kazuko, Kano Takashi, Takechi Kazutaka	4. 巻 22
2. 論文標題 The price of distance: pricing-to-market and geographic barriers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Economic Geography	6. 最初と最後の頁 873 ~ 899
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jeg/lbab013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久野研二	4. 巻 415
2. 論文標題 障害平等研修 (DET) ; 加害・変革当事者性 (獲得) のための発見・対話型障害学習が導くもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊ヒューマンライツ	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田藍津子, 玄番千恵巳, 今留忍, 田中恵美子	4. 巻 61
2. 論文標題 大学の人的・物的資源を活用した子育て支援プログラムの検討-親の子育てへの思いと期待する支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京家政大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagae Akira, Katayama Hajime, Takase Koichi	4. 巻 106
2. 論文標題 Donor aid allocation and accounting standards of recipients	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Economic Modelling	6. 最初と最後の頁 105702-105702
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.econmod.2021.105702	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 173
2. 論文標題 障害者権利条約の審査過程と建設的対話	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 66-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽 菜生, 丹羽 太一, 竹島 恵子, 秋山 哲男	4. 巻 784
2. 論文標題 認知症者や自閉スペクトラム症者などの外見から見えにくい障害がある人を含んだ円滑な移動の為に施設計画と人的支援の課題に関する基礎研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 2396-2407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumura Kenta, Morozumi Ryoko, Hamazaki Kei, Tsuchida Akiko, Inadera Hidekuni	4. 巻 33
2. 論文標題 Effect Estimate of Time-varying Social Support and Trust on the Physical and Mental Health of Mothers at 2.5 Years Postpartum: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 177-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20210134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島聡	4. 巻 1
2. 論文標題 精神障害者への適切な治療を妨げた強制拘禁時の言語的障壁と非人道的または品位を傷つける取扱いの禁止・自由剥奪の禁止 ローマン判決	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人権判例報	6. 最初と最後の頁 108-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中恵美子、平井佑典、野澤純子、奥平真砂子、下尾直子	4. 巻 61
2. 論文標題 障害の社会モデルの啓発・理解促進に向けた授業の開発：障害を学ぶための授業の比較から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京家政大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 169
2. 論文標題 高齢と障害の交差性 - コロナ、エイジズム、高齢者の権利条約	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 70-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽菜生、丹羽太一、秋山哲男	4. 巻 86
2. 論文標題 空港バリアフリー施策における制度的整備の比較研究 総合的な視点から見る日欧米の空港・航空施策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 1641-1651
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.86.1641	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坊農真弓・福島智	4. 巻 27
2. 論文標題 研究者×当事者：福島智の世界とのつながりかた	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 123-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morozumi Ryoko, the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group, Matsumura Kenta, Hamazaki Kei, Tsuchida Akiko, Takamori Ayako, Inadera Hidekuni	4. 巻 20
2. 論文標題 Impact of individual and neighborhood social capital on the physical and mental health of pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Pregnancy and Childbirth	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12884-020-03131-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita Mai	4. 巻 12
2. 論文標題 Disabled people and the labor market in the 1950s: the Japanese experience	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Asian Studies	6. 最初と最後の頁 1~13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1479591421000048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田玲子・星加良司・飯野由里子	4. 巻 3
2. 論文標題 旅行業における「同伴者の同行」という条件付与の不当性 障害者差別解消法の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 障害法	6. 最初と最後の頁 97-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川直哉	4. 巻 40
2. 論文標題 田中亜以子『男たち/女たちの恋愛: 近代日本の「自己」とジェンダー』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女性学年報	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯野由里子	4. 巻 47-13
2. 論文標題 『思いやり』を超えて 合理的配慮に関わるコンプライアンスの新たな理解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Alqahtani Saleh, Joseph James, Dicianno Brad, Layton Natasha Ann, Toro Maria Luisa, Ferretti Eliana, Tuakli-Wosornu Yetsa A., Chhabra Harvinder, Neyedli Heather, Lopes Celia Regina, Alqahtani Mazen M., Van de Vliet Peter, Kumagaya Shin-Ichiro, Kim Jong-Bae, McKinney Vic, Yang Yu-Sheng, Goldberg Mary, Cooper Rory	4. 巻 19
2. 論文標題 Stakeholder perspectives on research and development priorities for mobility assistive-technology: a literature review	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Disability and Rehabilitation: Assistive Technology	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17483107.2019.1650300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Osumi Michihiro, Sano Yuko, Ichinose Akimichi, Wake Naoki, Yozu Arito, Kumagaya Shin-Ichiro, Kuniyoshi Yasuo, Morioka Shu, Sumitani Masahiko	4. 巻 26
2. 論文標題 Direct evidence of EEG coherence in alleviating phantom limb pain by virtual referred sensation: Case report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neurocase	6. 最初と最後の頁 55~59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13554794.2019.1696368	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森壮也	4. 巻 755
2. 論文標題 ケニアにおける障害者の現状と支援の在り方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際開発ジャーナル	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kano Kazuko	4. 巻 69
2. 論文標題 Consumer Inventory and Demand for Storable Goods: New Evidence from a Consumer Survey	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 284 ~ 305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗原房江	4. 巻 59(8)
2. 論文標題 看護経済・政策研究会「病や障害とともに生きる看護職の活用-ケアギバーとしての役割と共生社会への道」開催報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 730-733
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osamu NAGASE	4. 巻 10
2. 論文標題 Sagamihara Attack and Challenges of Community-Living	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ars Vivendi Journal	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西倉実季	4. 巻 26
2. 論文標題 美的労働 (aesthetic labour) 概念が提起するもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女性学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島智	4. 巻 56(1)
2. 論文標題 「優生保護法」は、今も私たちの内面に潜んでいないか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床心理学研究	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cho, In-Koo, and Akihiko Matsui	4. 巻 170
2. 論文標題 Foundation of competitive equilibrium with non-transferable utility	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 227-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jet.2017.05.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Cho, In-Koo, and Akihiko Matsui	4. 巻 59
2. 論文標題 Search, Adverse Selection, and Market Clearing	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Economic Review	6. 最初と最後の頁 1437-1467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 星加良司	4. 巻 13
2. 論文標題 合理的配慮と医学モデルの影	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aramaki, E., Shikata, S., Ayaya, S., & Kumagaya S.	4. 巻 6(5):e83
2. 論文標題 Crowdsourced identification of possible allergy associated factors: automated hypothesis generation and validation using a crowdsourcing services	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JMIR Research Protocols	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/resprot.5851	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inui, T., Kumagaya, S., & Myowa-Yamakoshi, M.	4. 巻 11:354
2. 論文標題 Neurodevelopmental hypothesis about the etiology of autism spectrum disorders	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2017.00354	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fukuyama, H., Kumagaya S., Asada, K., Ayaya, S., & Kato, M.	4. 巻 7(1):8259
2. 論文標題 Autonomic versus perceptual accounts for tactile hyper sensitivity in autism spectrum disorder	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-08730-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asada, K., Tojo Y., Hakarino, K., Saito, A., Hasegawa, T., & Kumagaya, S.	4. 巻 48(2)
2. 論文標題 Body image in autism: Evidence from body size estimation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Autism and Developmental Disorders	6. 最初と最後の頁 611-618
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10803-017-3323-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lin I.F., Hiroya, S, Asada, K., Ayaya, S, Kumagaya, S., & Kato, M.	4. 巻 39(2)
2. 論文標題 Vocal analysis of speech in adults with autism spectrum disorders	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Acoustical Science and Technology	6. 最初と最後の頁 154-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1250/ast.39.154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 157
2. 論文標題 台湾の建設的対話と総括所見障害者権利条約	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西倉実季	4. 巻 2
2. 論文標題 生きるためのユーモア 自己を笑う、病いの日常を笑う	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 語りの地平ライフストーリー研究	6. 最初と最後の頁 3-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森壯也	4. 巻 -
2. 論文標題 「アカデミズムにおけるエイブルイズム(非障害者優先主義)」シンポジウムから	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDEスクエア--海外研究員レポート	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 臼井久実子	4. 巻 157
2. 論文標題 女性と障害の複合した差別状況に発して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊福祉労働	6. 最初と最後の頁 93-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計160件 (うち招待講演 65件 / うち国際学会 41件)

1. 発表者名 Akihiko Matsui
2. 発表標題 Did Personnel Systems Trigger the Breakout of a Vitamin Deficiency Disease?: A Case of 19-20 Century Japanese Military Forces
3. 学会等名 High Tower Seminar (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 星加良司
2. 発表標題 障害学から見た「障害学生支援」の基本問題
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第8回大会、オンライン (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 瀬山紀子
2. 発表標題 災害時に生じる複合的困難 / 交差性の課題を考える
3. 学会等名 日本災害看護学会第23回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者権利条約を通じた日本の障害者政策の転換の課題：社会権から自由権へ
3. 学会等名 仏障害研究フォーラム（フランス国立社会科学高等研究院）ZOOM（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Sagamihara Stabbings: Ableism, Community Living and Death
3. 学会等名 International Workshop on Crime, Criminalization and Injustice, Zoom（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Sagamihara Stabbings, Community-Living, CRPD
3. 学会等名 Disability Law and Policy Work, ZOOM（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Taichi NIWA
2. 発表標題 A study of the development of inclusive design initiatives OF AIRPORT IN JAPAN- at Chubu, Tokyo International and Narita airports
3. 学会等名 Virtual Poster Session TRANSED2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丹羽菜生
2. 発表標題 Inclusive design for Persons with Reduced Mobility during renovation of Narita International Airport in Japan
3. 学会等名 TRANSED: Mobility, Accessibility & Demand Response Transportation Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Megumi Murakami
2. 発表標題 Japanese medical licensing system in the late 19th century-early 20th century
3. 学会等名 Economic history lunch seminar at Northwestern University
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Megumi Murakami
2. 発表標題 明治期日本の医学制度と「難病」 - 帝国陸海軍の脚気対策 -
3. 学会等名 社会経済史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森口千晶
2. 発表標題 Modernizing Medicine: Spatial Distributions of Physicians in Japan, 1872-2000
3. 学会等名 2022 Asian Historical Economics Conference Session A3
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 臼井久美子・瀬山紀子
2. 発表標題 増大する「心身の故障」欠格条項 2020年障害者欠格条項調査報告
3. 学会等名 障害学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中恵美子
2. 発表標題 知的障害者の自立生活と母親の語り
3. 学会等名 障害学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 The UNCRPD and Incorporating Intersectionality in Disability Rights Scholarship and Policy Advocacy
3. 学会等名 Workshop on the Equal Participation and Inclusive Society of Persons with Disabilities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福島智
2. 発表標題 点字は私の父、指点字は私の母
3. 学会等名 日本の点字制定130周年記念講演会 (日本点字委員会) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上愛
2. 発表標題 Coevolution of culture and institution: The role of doctors in historical cases of Hansen's disease
3. 学会等名 Economic History Lunch Seminar at Northwestern University
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akihiko, Matsui
2. 発表標題 Disability and Economy
3. 学会等名 東京フォーラム2019（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前川直哉
2. 発表標題 1980年代の若年男性向け雑誌における恋愛のゲーム化と消費扇動
3. 学会等名 第16回ジェンダー史学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川島聡
2. 発表標題 合理的配慮と不当な差別的取扱い
3. 学会等名 日本教育行政学会第54回大会(埼玉大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kumagaya Shinichiro
2. 発表標題 Introduction to Tojisha-kenkyu: Co-production of autism research in Japan
3. 学会等名 UK-Japan Symposium-Research on Autism Spectrum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 当事者研究と共同創造
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 語りのチカラ：発見：リカバリー・反スティグマ
3. 学会等名 第16回日本アディクション看護学会学術シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jyh-Jong Hsieh, Yukie Nagai, Shinichiro Kumagaya, Satsuki Ayaya, and Minoru Asada
2. 発表標題 Atypical Auditory Perception in Autism Spectrum Disorder: A Synthetic Approach to Evaluate the Perceptual Patterns and Environmental Causes
3. 学会等名 The International Society for Autism Research Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Emiko Tanaka
2. 発表標題 The Effects of the Workshop about Parenting with Intellectual Disabilities in Japan
3. 学会等名 International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽菜生
2. 発表標題 空港におけるユニバーサル・デザインの取り組み (東京国際空港国際線ターミナルの事例)
3. 学会等名 日本ロービジョン学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽太一、丹羽菜生、秋山哲男、他4名
2. 発表標題 権利という視点から捉えた移動制約者の航空機利用に関する欧米の法的基準について
3. 学会等名 福祉のまちづくり学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福島智
2. 発表標題 盲ろう者にとっての豊饒化したコミュニケーション～指文字通訳をどのように育てていったのか?～
3. 学会等名 国立情報学研究所主催国際ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森壮也
2. 発表標題 フィリピンにおける障害者の法的能力-障害者権利条約との関連から
3. 学会等名 国際開発学会第20回春季大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森壮也
2. 発表標題 中東における「障害と開発」（序論-イスラームにおける障害とは何か）
3. 学会等名 障害学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akihiko Matsui
2. 発表標題 A two-stage model of assignment and market
3. 学会等名 Workshop on Matching, Search and Market Design, Dynamic Models in Economics, Institute for Mathematical Sciences（招待講演） （国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akihiko Matsui
2. 発表標題 A Two-Stage Model of Assignment and Market
3. 学会等名 The 3rd East Asia Game Theory International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hoshika, R
2. 発表標題 Is the Paralympics a modern freak show?
3. 学会等名 East Asia Disability Studies Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuriko Iino
2. 発表標題 'Queering' disability may be possible, but...
3. 学会等名 Queering Japan: Transnational Perspectives on Politics, Society and Culture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuriko Iino
2. 発表標題 The Intersection between LGBT+ and Disability Rights Movements in Japan
3. 学会等名 Conference on Disability, SOGIE and Equality in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi Kawashima
2. 発表標題 CRPD and Disability Policy Reform in Japan
3. 学会等名 International Symposium on International and Taiwanese Experiences of the UNCRPD implementation: Domestic Right Application and Improvement Social Policy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Kawashima & Miki Nishikura
2. 発表標題 The Tension between Reasonable Accommodations and Career Supports for Students with Disabilities in Universities in Japan
3. 学会等名 Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗原房江
2. 発表標題 看護基礎教育課程におけるコンフリクトとテクニカルスタンダードを充足しての合理的配慮提供の可能性 - 聴覚障害を例として -
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会 (AHEAD JAPAN) 第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Nagae, Hajime Katayama, Koichi Takase
2. 発表標題 Does a New Accounting Report System Matter to Foreign Aid Allocation?
3. 学会等名 WEA (Western Economic Association) 15th International Conference, Keio University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西倉実季
2. 発表標題 「美的労働」概念の分析視角とジェンダー論的意義
3. 学会等名 2018年度日本女性学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丹羽菜生
2. 発表標題 Design examples of Haneda International Airport incorporating the disabled's viewpoints.
3. 学会等名 TRANSED (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Watanabe, Saori
2. 発表標題 Expanding Patient-Centered Research: A Survey for Clinical Researchers and Patients with Rare Diseases
3. 学会等名 The Inaugural Congress of the East Asian Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Saori WATANABE
2. 発表標題 Genetic Citizenship in Rare Diseases Policy: Patient's Participation for Genomic Science Research
3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡部沙織
2. 発表標題 日本における難病政策の形成と変容の研究：疾患名モデルによる公費医療のメカニズム
3. 学会等名 第136回社会政策学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上愛
2. 発表標題 A Two Stage Model of Assignment and Market
3. 学会等名 岡山大学経済学部現代経済セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西田玲子・星加良司・飯野由里子
2. 発表標題 障害者差別解消法企業向けeラーニングの受講結果における属性、経験別の傾向
3. 学会等名 第14回障害学会大会ポスター報告
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuko Kano
2. 発表標題 Consumer Inventory and Demand for a Storable Good: Evidence from Consumer Surveys
3. 学会等名 The 2nd Asia Pacific Industrial Organization Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 当事者研究がめざす言葉・知識・価値のバリアフリー
3. 学会等名 日本福祉のまちづくり学会2017年度社員総会時公開セミナー「障害者の理解」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西倉実季
2. 発表標題 『社会学と障害学の対話』へのコメント
3. 学会等名 関西社会学会2017年度第68回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福島智
2. 発表標題 インクルーシブな社会における心のバリアフリー
3. 学会等名 (株)日本保育サービス園長会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森壮也
2. 発表標題 DISABILITY AND POVERTY IN THE PHILIPPINES: An Intersectional Analysis of Women with Disabilities in the Philippines through the Lens of Developmental Studies and Disability Studies
3. 学会等名 University of California, Berkeley講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前川直哉
2. 発表標題 男性同性愛者が文通欄で求めた交際のかたち
3. 学会等名 第33回日本解放社会学会大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計47件

1. 著者名 松井彰彦・塔島ひろみ編著、西倉実季、田中恵美子、丹羽太一、前川直哉ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ハウレーカ	5. 総ページ数 304
3. 書名 マイノリティだと思っていたらマジョリティだった件	

1. 著者名 星加良司（東京大学未来社会協創推進本部監修）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 231
3. 書名 東大×SDGs：先端知からみえてくる未来のカタチ（分担執筆）	

1. 著者名 杉浦郁子、前川直哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 270
3. 書名 「地方」と性的マイノリティ：東北6県のインタビューから	

1. 著者名 川島 聡、菅原 絵美、山崎 公士	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 186
3. 書名 国際人権法の考え方	

1. 著者名 田中恵美子 千田好夫 下尾直子 MASHU 白井千晶	4. 発行年 2022年
2. 出版社 千書房	5. 総ページ数 32
3. 書名 わたしたち、こんなふうに、暮らしているよ	

1. 著者名 長瀬修	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Oxfordshire and New York: Routledge	5. 総ページ数 225
3. 書名 Diversity, inclusion and disability in Japan: The usefulness of reasonable accommodation In L. Alcantara & Y225. Shinohara (Eds.). Diversity and Inclusion in Japan: Issues in Business and Higher Education (pp. 100-116)	

1. 著者名 福島智 (鯨岡 峻、大倉得史編、黒田生子著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 176
3. 書名 接面を生きる人間学 「共に生きる」とはどういうことか (担当: 「盲ろう者とコミュニケーション」)	

1. 著者名 福島智 (中島由宇、沖潮満里子、広津侑実子編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 330
3. 書名 これからの障害心理学 (担当: 「支援を受けるという体験: 言語化しづらい思い」 (pp127-128))	

1. 著者名 飯野由里子・西倉実季・星加良司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 1
3. 書名 「社会」を扱う新たなモード：「障害の社会モデル」の使い方	

1. 著者名 田中恵美子（日本発達障害連盟編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 発達障害白書 2021年版（担当：知的障害者の結婚と子育て）（pp110-111）	

1. 著者名 Matsui, Akihiko	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 236
3. 書名 Economy and Disability	

1. 著者名 熊谷 晋一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ジャパンマシニスト社	5. 総ページ数 192
3. 書名 小児科の先生が車椅子だったら（ちいさい・おおきい・よわい・つよい No.123）	

1. 著者名 長瀬修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 482
3. 書名 "Voices from survivors of forced sterilisations in Japan: Eugenics Protection Law 1948–1996" "(Berghs, M. et al, eds) The Routledge Handbook of Disability Activism"	

1. 著者名 Mori, S., and Sugimoto, A., 'Progress and Problems in the Campaign for Sign Language Recognition in Japan' (pp.104-118)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Multilingual Matters	5. 総ページ数 352
3. 書名 De Meulder, M., Murray, J.J. and Mckee, R.L. eds., "The Legal Recognition of Sign Languages - Advocacy and Outcomes Around the World"	

1. 著者名 森壯也「フィリピンにおける障害者の法的能力」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 1
3. 書名 小林昌之編『アジアの障害者の法的能力と成年後見制度－障害者権利条約から問い直す－』	

1. 著者名 久野研二（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 現代書館	5. 総ページ数 185
3. 書名 社会の障害を見つけよう：一人ひとりが主役の障害平等研修	

1. 著者名 小林多寿子・浅野智彦編、牧野智和・西倉実季・鷹田佳典・桜井厚・伊藤秀樹著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 304
3. 書名 自己語りの社会学	

1. 著者名 国際女性の地位協会、山下泰子、矢沢澄子(監修)、山下泰子、阿部浩己、林陽子、渡辺美穂、堀内光子、糖塚康江、三浦まり、瀬山紀子ほか(著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 男女平等はどこまで進んだか：女性差別撤廃条約から考える	

1. 著者名 長瀬修・川島聡(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 532
3. 書名 障害者権利条約の実施：批准後の日本の課題	

1. 著者名 西村由紀子、江本駿、渡部沙織、佐藤信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 希少・難治性疾患領域患者協議会リーダーを対象としたオーラル・ヒストリープロジェクト調査報告書	5. 総ページ数 207
3. 書名 希少・難治性疾患領域患者協議会リーダーを対象としたオーラル・ヒストリープロジェクト：認定NPO法人難病のこども支援ネットワーク顧問・小林信秋氏	

1. 著者名 熊谷晋一郎 (編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 臨床心理学増刊号第9号：みんなの当事者研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>REDDY (多様性の経済学) http://www.reddy.e.u-tokyo.ac.jp/ 松井彰彦、「自立と市場」、東京書籍『精選現代の国語』、127-131、2021 星加良司、「ダイバーシティ推進」の理由を再考する」、第1回OTD研究会東京大学、2019 杉浦郁子・前川直哉編、『東北地方の性的マイノリティ団体 活動調査報告書』、2021 川島聡(著)、松井彰彦、長江亮、大関智也、冨田佳樹、丹羽太一、塔島ひろみ(編)、科研費基盤研究(B)「障害者就労制度の日独英比較 法学と経済学の学際的アプローチ」、岡山県における就労継続支援A型事業所の利用者の就労実態等の解明等のための調査の結果概要報告書、2022 医療従事関連国家資格を有する聴覚障害者の就労実態に関する研究(2020)聴覚障害をもつ医療従事者の会、2020年(第3回)就労実態調査・研究 報告書、研究代表者 松井彰彦、調査担当者、報告書作成担当 栗原房江、2021 田中恵美子、「施設のトイレで窒息死した乳児 事件は防げなかったのか」(コメント)共同通信、2021 長江亮、「障害者の雇用と生産性」、NHKラジオ第1「NHKマイあさラジオ」社会の見方・私の視点、2018 長瀬修、喪失 殺害された国際障害者年の父(マンスール・ラシッド・キヒア)の娘 http://www.reddy.e.u-tokyo.ac.jp/act/essay_serial/nagase.html 西倉実季、合理的配慮における対話―「障害の社会モデル」を手掛かりに、第25回全国弁護士会ADRセンター連絡協議会、2021 丹羽太一・丹羽菜生、「ライフタイム・デザインで家を考える-車いすの視点から捉えるユニバーサルデザインと建築-」令和2年度県民大学講座、茨城県水戸生涯学習センター ユニバーサルデザインがひらくこれからの未来、2020 福島智、「私は言いたい 2021衆院選」、大分合同新聞(インタビュー記事)、2021 森壮也、「日本手話」、『世界の公用語事典』、丸善出版、2022</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 直哉 (Maekawa Naoya) (20739156)	福島大学・教育推進機構・特任准教授 (11601)	
研究分担者	星加 良司 (Hoshika Ryouji) (40418645)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	飯野 由里子 (Iino Yuriko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	臼井 久実子 (Usui Kumiko)		
研究協力者	金子 能宏 (Kaneko Yoshihiro)		
研究協力者	加納 和子 (Kano Kazuko)		
研究協力者	川島 聡 (Kawashima Satoshi)		
研究協力者	久野 研二 (Kuno Kenji)		
研究協力者	熊谷 晋一郎 (Kumagaya Shin-Ichiro)		
研究協力者	栗原 房江 (Kurihara Fusae)		
研究協力者	児玉 有子 (Kodama Yuko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	瀬山 紀子 (Seyama Noriko)		
研究協力者	田中 恵美子 (Tanaka Emiko)		
研究協力者	長江 亮 (Nagae Akira)		
研究協力者	長瀬 修 (Nagase Osamu)		
研究協力者	西倉 実季 (Nishikura Miki)		
研究協力者	丹羽 菜生 (Niwa Nao)		
研究協力者	丹羽 太一 (Niwa Taichi)		
研究協力者	福島 智 (Fukushima Satoshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	村上 愛 (Murakami Megumi)		
研究協力者	森 壮也 (Mori Soya)		
研究協力者	両角 良子 (Morozumi Ryoko)		
研究協力者	山下 麻衣 (Yamashita Mai)		
研究協力者	渡部 沙織 (Watanabe Saori)		
研究協力者	チョー インクー (Cho In-Koo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 the Israel-Japan Disability Studies International Seminar	開催年 2022年～2022年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

米国	Northwestern University	Emory University		
フランス	フランス国立社会科学高等研究 院 (EHESS)			